



齊藤勝美 葆光彩磁香炉「掌華」 平成20年(2008) 径13.4×高15.1cm 佐野市立吉澤記念美術館寄託

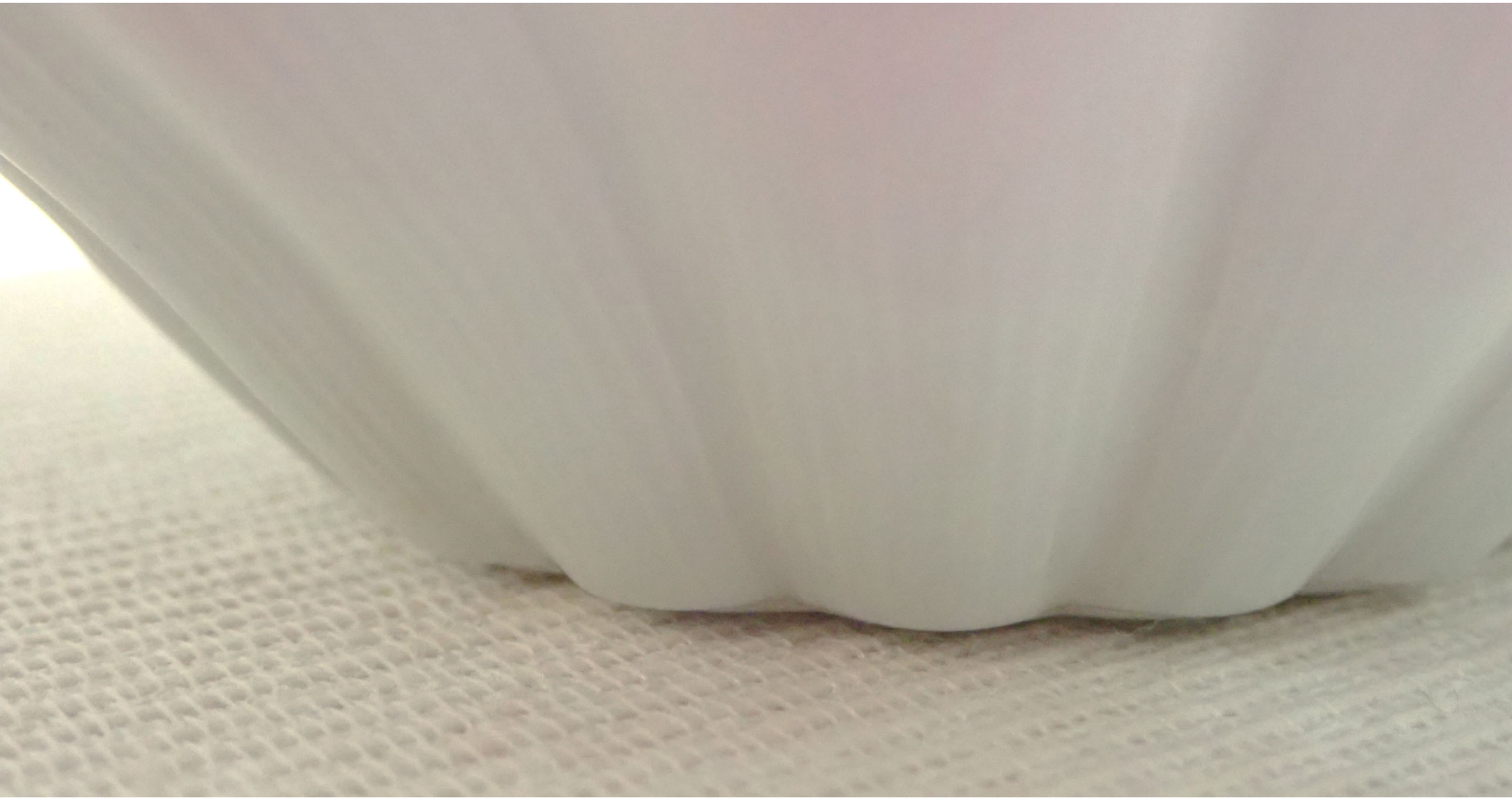
## より有機的な形へ

咲きはじめての蓮のつぼみと、合わせた両手を思わせませす。仏前に香りを供える香炉にふさわしい造形です。しっとりとした落ち着いたピンクは底部の緑色と重なり、美しいグラデーションを作り出しています。

2000年頃から多様な器の形を探っていた齊藤は、蓮の蕾に想を得た香炉「掌華」のシリーズに着手しました。映画の前後に制作された一連の作品を比較すると、齊藤の作風の変化がよくわかります。右の緑色の作品では、段階的な色彩変化・硬い造形ですが、映画後の2点は、色を重ねるグラデーション・より柔らかく有機的な造形へと変化しています。



齊藤勝美、佐野市立吉澤記念美術館寄託 右から順に  
彩磁香炉「掌華」平成15年(2003)  
葆光彩磁香炉「掌華」平成20年(2008)  
葆光彩磁香炉「薰風」平成22年(2010)



齊藤勝美 葆光彩磁香炉「掌華」 平成20年(2008) 佐野市立吉澤記念美術館寄託



齊藤勝美 葆光彩磁香炉「掌華」 平成20年(2008) 佐野市立吉澤記念美術館寄託



齊藤勝美 葆光彩磁香炉「掌華」 平成20年(2008) 佐野市立吉澤記念美術館寄託